

1. 3. 3 専門家派遣

実証事業の実施にあたって実施者または担当者は、コスト縮減や普及といった課題の解決に取り組むために必要な関係者が集まる場を設け、技術的内容について専門家の意見を聴く場合に限り、専門家（以下「専門家委員」という。）の指導を住木センターに要望することができるものとした。なお、本年度の派遣実績としては4件であった。

1. 3. 4 各実証事業の講評とまとめ

本年度実施した11件について、検討委員会で講評を行った。委員から出された意見等を以下に記す。

(1) (株)Hug-Me／ライフデザイン・カバヤ(株)

- ・ 昨年の法改正をうけ、耐力壁の量が低減され、4.5%のコストダウンが見込めたとありましたが、決して低い数字ではないと感じた。
- ・ 合わせて接合部の量も減らすことができ、コストダウンに繋がったと報告があった。また、水平構面の確保に実施者は苦勞されていたようで、24mm 厚の合板で固められていた。実際に建物の中に入ってみましたが、意外と壁が少なかったことを記憶している。

(2) (個人)／(株)バスクデザイン

- ・ 今年設計での提案で来年建築予定の実証事業になりますが、鉄骨だけで建てられる中、CLT 壁を取り入れ、ダンパー的な役割を果たしつつ剛性を高める設計手法は普及されていくものだと感じた。建築主もこの事業に積極的に参加されていたので、事業遂行に向け頑張っていただきたい。

(3) (株)鈴工／studioK0IVU 一級建築士事務所

- ・ 設計のコンセプトは、大きな開口部を確保しつつコストを抑えるため、一方向に大板のCLTを使用し、直行方向には鉄骨を採用するというものであった。
- ・ 耐久性に関して、大板 CLT が屋外で雨ざらしになることを避けるべきだと実施者に説明した。
- ・ 混合構造の場合、異なる材料が使用されることで施工精度の問題が発生する可能性がある。そのため、BIM、CAD、CAM を連動させることでこの問題を解決できると思う。
- ・ 片持ち部分については、風圧力に対する問題がないか検討する必要がある。これについても実施者に説明した。

(4) (株)三東工業社

- ・ V 字の CLT 梁が水平力に対してどのように抵抗するのか構造設計者は非常に興味があると思うので、データは広く共有いただきたい。
- ・ 斜めの壁になりますが、将来的には耐力壁として機能することを想定されているが、もし、風、地震でねじれた時どうなるのか気になる。

- ・引張材がワイヤー1本で計画されていて、このワイヤーが錆びたりしたらどうなるのか懸念が残っている。

(5) (株)采建築社／SAI GROUP HOLDINGS(株)

- ・オール木質化するため、1階と2階の間の鉄骨はなくそうと試みたが、構造的に難しく金物を使用することになったと実施者は話していたが、モデルハウスを拝見したところ金物を見せない工夫やデッドスペースの活用法などデザイン能力の高さが伺えた。今後この工法をどのように事業展開していくのか最大の課題だと思う。

(6) (個人)／大谷一翔建築設計事務所

- ・外壁仕上げにパーライトモルタル塗りを採用しているがパーライトの比率を高めた影響が生じないか たとえば軽量の為に厚塗りができモルタルの強度やひび割れ防止に貢献していると思われるが 逆に雨水の透水性や保水性が高まることによる問題が生じないか経過観察をお願いしたい。

(7) (株)篠原商店／(株)木建ハウス

本建物はCLT 現し仕上げの木質空間を採用し、500 m²の平屋と1,000 m²の二階建てから成る。CLT パネルを組み立ててT型の梁を形成し、持ち送りで架設する方式を採用。有効スパンは14.4m、外々スパンは21.6m。T型梁は興味深い試みだが、特に直行方向の強度確保が課題として残る。直行方向の安定性向上のための追加対策について、より詳細な検討が必要。

(8) (株)ホンダカーズ東総／(株)ハヤシ工務店

協議会運営者の熱意によって、オーナーの理解を得ることができた点が印象的。コスト比較データは、他の事例においても有用な参考資料となるため、詳細な分析を進めていただきたい。

(9) (株)一也百／(有)渡邊工舎

歴史ある木造建築の良さが評価され、RC造の劣化が問題視されたことで、CLT導入の説得力が増した。プロジェクトマネージャーの存在が成功の鍵となった事例であり、今後もこうした専門家の役割に注目したい。

(10) (株)INATETSU／(株)studioKOIVU 一級建築士事務所

鉄骨会社が木造技術を取り入れた興味深い取り組み。CLT 耐力壁の適用方法や施工合理化の点で、大きな可能性を感じる。今後、実際の建設段階での課題抽出が求められる。

(11) 銘建工業(株)／(株)PERSIMMON HILLS architects

CLT と集成材を組み合わせたトラス構造は、施工の合理化という観点では非常に興味深

いが、高負荷時の耐久性についてさらなる評価が必要である。

1. 4 成果の普及

1. 4. 1 成果報告会

実施事業の成果は下記の成果報告会において報告した。本年度は提案事業が多いことから、2日間の開催とした。成果報告会では、「CLT建築物事例集2023」、「CLT建築物事例集2024」を配布するとともに、学識関係者と本年度の実施者を交えたパネルディスカッションを開催し、本事業の成果の普及に努めた。開催概要は（1）（2）の通り。

（1）令和5年度 成果報告会タイトル：ー地域から広がる、CLT 建築を目指してー

開催日：令和6年3月4日（月） 13:00～16:30

令和6年3月5日（火） 13:00～16:30

会場：東京大学弥生講堂 一条ホール（東京都文京区弥生 1-1-1）

報告形式：会場参加+WEB を用いたオンライン報告会

定員：51 名（対面）+464 名（WEB）

CLTを活用した建築物等実証事業(後継事業)成果報告会
公益財団法人 日本住宅・木材技術センター講演会 合同開催
ー地域から広がる、CLT建築を目指してー



CLT(直交集成材)は木造建築の可能性を広げるものとして期待されています。令和3年3月には国から「CLTの普及に向けたロードマップ」として、令和7年度までの5年間のCLT普及方針が示され、CLTの一層の需要拡大の取組が図られています。こうした中、研究機関や民間事業者においては国等の支援も活用しながら様々な取組が進められ、CLTを活用した建築物は令和5年度に1,000件を超える見込みです。

本センターでは平成26年度から林野庁補助事業「CLTを活用した建築物等実証事業」において、CLTの実用化に向けた取り組みを行っており、本成果報告会では、令和5年度における実証事業の成果を広く報告することにより、CLTの普及促進を図ります。

日時
令和6年3月4日 13:00~16:30
令和6年3月5日 13:00~16:30
(定員超過) 12:30開場 両日共)

会場
東京大学弥生講堂 一条ホール
東京都文京区弥生1-1-1 東京大学弥生講堂内

定員
会場 100名 WEB 1,000名

参加費
会場 WEB 共に無料

お申し込み
お申し込み 受付開始 令和6年2月2日より

お申し込み
お申し込み 受付開始 令和6年2月2日より

お申し込み
お申し込み 受付開始 令和6年2月2日より

プログラム

令和6年3月4日(月) 13:00 ~ 16:30

13:00 開会 主催者 実証事業

13:10 ①山の幸の集会所等実証事業の設計・建築実証 株式会社山崎建設/有限会社山崎建設設計事務所
②株式会社ゆうき 新建築実証事業の建築、性能実証 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
③新建築実証事業CLTプロダクトの設計・建築実証 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
④新建築実証事業CLTプロダクトの設計・建築実証 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑤山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑥山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑦山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑧山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑨山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑩山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所

14:30 休憩(10分)

14:40 ①山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
②山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
③山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
④山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑤山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑥山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑦山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑧山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑨山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑩山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所

16:30 閉会

令和6年3月5日(火) 13:00 ~ 16:30

13:00 開会

13:10 ①CLTによるスリット屋根をもつ複層ビルディング実証事業の設計・建築実証 有限会社山崎建設/KOVU一般建築士事務所
②山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
③山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
④山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑤山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑥山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑦山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑧山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑨山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
⑩山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所

14:30 休憩(10分)

14:40 パネルディスカッション(90分)ー地域から広がる、CLT建築を目指してー
コーディネーター 有限会社山崎建設/有限会社山崎建設設計事務所
山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所
山崎建設 株式会社ゆうき/株式会社H&D architects 一般建築士事務所

16:30 閉会

お申し込み 受付開始 令和6年2月2日より

以下のURL QRコードからお申し込みください。
<https://forms.gle/poFCywjAdVQ3pOx>

お問い合わせ: CLTを活用した建築物等実証事業成果報告会事務局(株式会社山崎・プロデューサー)
mail clt@nan-produce.jp

（2）令和6年度 成果報告会タイトル：ーCLT の標準化から見える都市(まち)の木造化ー

開催日：令和7年3月4日（火） 13:00～16:30

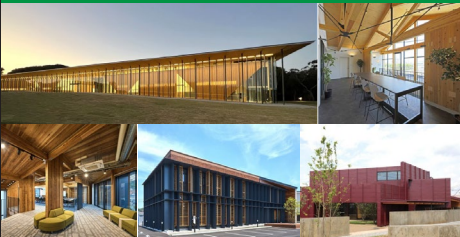
令和7年3月5日（水） 13:00～16:30

会場：木材会館（東京都江東区新木場 1-18-8）

報告形式：会場参加+WEB を用いたオンライン報告会

定員：129 名（対面）+297 名（WEB）

CLTを活用した建築物等実証事業（令和5年度）成果報告会
公益財団法人 日本住宅・木材技術センター協議会 合同開催
— CLTの標準化から見える都市（まち）の木造化 —



CLT（素交集成材）は木造建築の可能性を広げるものとして期待されています。令和3年3月には閣下「CLTの普及に向けた新ロードマップ」として、令和7年度までの5年間のCLT普及方針が示され、CLTの一層の需要拡大の取組が展開されています。こうした中、研究機関や民間事業者においては諸等の支援策も活用しながら様々な取り組みが進められ、CLTを活用した建築物は令和6年度に1,300件を超える見通しです。

当センターでは平成26年度から林野庁補助事業「CLTを活用した建築物等実証事業」において、CLTの実用化に向けた取り組みを行っており、本成果報告会では、令和6年度における実証事業の成果を広く報告することにより、CLTの一層の普及促進を図ります。

日時 令和7年3月4日（火）13:00～16:30
令和7年3月5日（水）13:00～16:30
（両日開催）12:30開場（両日共）

会場 木材会館 7F大ホール
東京都江東区新木場 1-15-8 7階

定員 100名（先着順） 1,000名（抽選）

参加費 無料

お申し込み 受付開始 令和7年2月4日（金）より
以下のURL、QRコードからお申込みください。
<https://forms.gle/CMqjuK3W3Fgv65Sq>



Web上でダウンロード配布いたします。

プログラム	
令和7年3月4日(火) 13:00～16:30	
13:00 開会 主催者・来賓挨拶	
13:10 ①木質資源の活用促進に向けた取組の推進策 ②CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ③CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ④CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策	・木質資源の活用促進に向けた取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策
14:40 休憩（10分）	
14:50 ①CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ②CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ③CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ④CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策	・木質資源の活用促進に向けた取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策
15:30 閉会	

令和7年3月5日(水) 13:00～16:30	
13:00 開会	
13:10 ①木質資源の活用促進に向けた取組の推進策 ②CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ③CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ④CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策	・木質資源の活用促進に向けた取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策
14:40 休憩（10分）	
14:50 ①CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ②CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ③CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ④CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策	・木質資源の活用促進に向けた取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策 ・CLTの標準化による建築コスト削減の取組の推進策
15:30 閉会	

お申し込み 受付開始 7月24日より
以下のURL、QRコードからお申込みください。
<https://forms.gle/CMqjuK3W3Fgv65Sq>

お問い合わせ：CLTを活用した建築物等実証事業 成果報告会事務局（株式会社ラン・プロデュース内）
TEL 03-5555-5555

1. 4. 2 展示会への出展

これまでの実証事業の成果や、CLTを用いた建築物等の普及のため、展示会へ出展し、「CLT建築事例集」や「CLT活用建築物等実証事業パンフレット」等を来場された方に配布し、普及に努めた。出展した展示会は以下のとおり。

展示会タイトル：建材EXPO（東京）

開催日：令和5年12月13日（水）～12月15日（金）

会場：東京ビッグサイト（東京都江東区有明3-11-1）



1. 4. 3 成果報告の構成について

次項より、各実施者において作成した成果報告を掲載する。成果報告は表 1.4.2 の構成から成る。

表 1.4.1 成果報告の構成

項目	内 容		様 式
1	建築物の仕様一覧	建築物の概要、CLT 等の仕様、仕上、構造、防耐火、施工、工程、体制について記載。	指定様式 1 ページ(表 1.4.2)
2	実証事業の概要	事業で取り組んだ建築物の概要、実施体制、実証方法、成果等を簡潔にまとめたもの。	指定様式 4 ページ(成果報告会配布資料と同じ)
3	成果物	試験結果、設計図面、設計手引き、施工レポート 等、それぞれの事業で取り組むこととしたものの具体例。	任意様式

表 1.4.2

事業名			
実施者（担当者）			
建築物の概要	用途		
	建設地		
	構造・工法		
	階数		
	高さ（m）		
	軒高（m）		
	敷地面積（㎡）		
	建築面積（㎡）		
	延べ面積（㎡）		
	階別面積	1 階	
	2 階		
	3 階		
C L T の仕様	C L T 採用部位		
	C L T 使用量（m ³ ）		
	壁パネル	寸法	
		ラミナ構成	
		強度区分	
		樹種	
	床パネル	寸法	
		ラミナ構成	
		強度区分	
		樹種	
	屋根パネル	寸法	
		ラミナ構成	
		強度区分	
樹種			
木材	主な使用部位（CLT以外の構造材）		
	木材使用量（m ³ ）※構造材、羽柄材、下地材、仕上材等とし、CLT以外とする		
仕上	主な外部仕上	屋根	
		外壁	
		開口部	
	主な内部仕上	界壁	
		間仕切り壁	
		床	
	天井		
構造	構造計算ルート		
	接合方法		
	最大スパン		
	問題点・課題とその解決策		
防耐火	防火上の地域区分		
	耐火建築物等の要件		
	本建築物の防耐火仕様		
	問題点・課題とその解決策		
温熱	建築物省エネ法の該当有無		
	温熱環境確保に関する課題と解決策		
	主な断熱仕様 （断熱材の種類・厚さ）	屋根（又は天井）	
		外壁	
床			
施工	遮音性確保に関する課題と解決策		
	建て方における課題と解決策		
	給排水・電気配線設置上の工夫		
	劣化対策		
工程	設計期間		
	施工期間		
		C L T 躯体施工期間	
体制	竣工（予定）年月日		
	発注者		
	設計者（複数の場合はそれぞれ役割を記載）		
	構造設計者		
	施工者		
	C L T 供給者		
	ラミナ供給者		

1. 4. 4 CLT実証事業の事例に関するコスト分析報告

(1) 背景、目的

CLT 建築物の普及促進を図るため、本実証事業において設計、建築の実証等を行うとともに、建築実証において RC 造等の他工法と工事費、工期等を比較し、CLT の利点や課題等の取りまとめを行っている。

一方、令和 4 年 9 月に改定された CLT の新ロードマップにおいて、コスト面の優位性を高めるため、まとまった需要の確保や効率的な量産体制の構築を図るとともに、建築コスト関連の情報提供として、S 造や RC 造等とのコスト比較等に関する情報の提供を進めることとされている。

このため、本実証事業におけるコスト分析結果をもとに、CLT 建築物のコスト面の優位性がある事例を抽出し、その要因を分析するとともに、今後のコスト優位性増大の方向性等を明らかにし、公表資料を作成し CLT を用いた建築物の普及に繋げることを目的とした。

(2) 検討内容

以下、1) ～ 5) のとおり。

1) CLT 建築物実証事業の実施者データの整理

令和 3 年当初予算、令和 3 年度補正予算及び令和 4 年度当初予算 CLT 建築物実証事業の実施者から提出された CLT 建築物の建築実証におけるコストと同種同規模の RC 造建築物に係る数量積算ベースのコストの比較データの整理

2) CLT 建築物実証事業のコスト面の優位性がある事例の抽出、要因分析

(1) のデータ整理をもとに、コスト面の優位性がある事例（汎用性のある CLT や接合金物の仕様等に変更することにより優位性の増大が見込まれる事例を含む）を抽出し、その要因について分析、類型化を行った。

3) コスト面の優位性のある事例の比較設計

(2) のコスト面の優位性がある事例について、CLT 建築物実証事業の実施者の協力を得て、RC 造建築物等との比較設計を行った。今年度の比較設計として、RC 造建築物 1 事業、S 造建築物 1 事業の合計 2 事業について行った。比較設計図面は

4) 今後のコスト優位性増大の方向性の検討

(1) の検討結果をもとに、コスト削減の余地が大きな費目についてコスト削減の方向性について検討するほか、(2) 及び (3) の検討結果をもとに、コスト優位性をさらに増大させるための方向性について検討を行う。

5) 公表資料のとりまとめ

(3) コスト分析報告書

3. 1 にコスト分析に関する報告書を掲載する。また、3. 2 に (2) 3) で行った比較設計図面を掲載する。

1. 4. 5 CLT活用建築物等実証事業 10年間の変遷の整理と今後の課題

(1) 背景、目的

CLT 建築物の普及促進を図るため、CLT 活用建築物等実証事業において設計、建築の実証等を行うとともに、建築実証において RC 造等の他工法と工事費、工期等を比較し、CLT の利点や課題等の取りまとめを行っている。令和 5 年度で 10 年間の節目を迎え、累計で 140 を超える実証事業が行われてきた。この 10 年間で CLT 関連告示等の制定や改正が行われ、また建築基準法の防耐火規制の合理化等が行われたことにより、本実証事業の課題提案が変遷してきている。

このため、CLT 活用建築物等実証事業における 10 年間の変遷を分析し取りまとめることにより、CLT を用いた建築物の先駆性や普及性の方向性等を明らかにし、公表資料を作成し CLT を用いた建築物の更なる普及に繋げることを目的とした。

(2) 検討内容

本実証事業の開始当初より、採択された事業についてデータ整理を行った。

(3) 分析報告書

住木センター発行の「CLT を活用した建築物等実証事業の成果－10 年間の実績と今後の課題－」（令和 7 年 3 月）に掲載する。

2. 成果報告